

日本蜂研究会

<http://jpbee.org/>

Tokyo JAPAN

都内で日本ミツバチの保護育成を目的に活動しています。

(特別区非営利活動団体)

(日本在来種みつばちの会会員)

Nonprofit Organization Japanese Bee Study Group
(Meeting member of a Japanese native species honeybee)

蜂の保護・駆除のご相談はこちら

Contact us 連絡先vfc_216@8.gasuki.net

tel:080-4153-9914 softbank

(186-080-4153-9914 /着信表示許可)

薬を撒かれる前に是非ご相談下さい！ 相談無料

地方でも、委託出来る方を探します。

イタ電もあるため恐縮ですが、こちらからかけ直しは致しません。

mailアドレスはスパム対策のため随時変更しています。最新の物をご利用下さい。

日本ミツバチ以外の保護は有償です。

みつばち保護活動に協力できる方募集中です。

We are working for the purpose of protection training of a Japanese honeybee in the city of Tokyo. If it is an idea, please give the notice of extermination of a bee immediately. The inside of Tokyo's 23-ku Wards is mainly defeated by capture. (We are volunteers. Although it is no charge fundamentally, there is a case where cost prices, such as transportation expenses, start)

4月～5月は分封(ブンポウ/巣分かれ)の時期です。

新しい女王蜂が誕生し、蜂が2家族(2匹の女王蜂)になります。旧女王蜂が半分のはたらき蜂を引き連れて新たな巣を求めて飛び立ちます。これが分封です。

いったん軒下、木の幹などにハンドボール大の固りとなります。これを**蜂球(ほうきゅう)**とよびます。蜂球は引越し途中の一時的な滞留場所です。蜂球を作る時、また飛び立つときは、激しく飛び回りますが触らなければ刺されることはまずありません。

暖かく、天気が良ければ1～3日で、新たな巣を見つけ飛び去ります 蜂球の状態は、安定しており蜂の飛翔数も少ないです。

困る場所でなければ、しばらく様子を見てください。

飛び去らない場合

- ・天候不順
- ・女王がいない群
- ・直近に巣を作る空間がある(床下、屋根裏、換気扇、通風口、木の洞) 入られないように要注意
- ・新たな巣の候補地が見つからない

この様な条件に当てはまると**蜂球のまま巣を作り始めることもあります。**ほうきゅうとは。

**日本ミツバチのメスとオス、
オスは刺しません。**



2009年総相談件数	103 件
2010年春 相談件数	36 件

[日本蜂研究会の紹介 enter](#)



ミツバチの出現場所

[参考文献](#)

[ニホンミツバチをもっと見る](#)

[「蜂球」と「蜂の巣」の違い](#)

[ハチは刺すか？ html](#)

ニホンミツバチと西洋ミツバチ(見分け方)



お尻の黒い部分が多くやや小さめな体の日本ミツバチ



お尻が黄色くやや大ぶり、気性も少々荒い。



キンリョウヘン

春は、蘭の鉢にハチがたかる。と言う問い合わせを数件いただいています。キンリョウヘンは、みつばちの女王蜂と同じニオイを出すと言われており、これに引き寄せられて分封(巣分かれ)した群れが引き寄せられてやってきます。花の咲く時期は室内でご鑑賞下さい。



西洋ミツバチが、サッシの下、モルタルの穴から壁の中に巣を作りました。

私どもでは、巣に手が届かない場所に対応できません。

西洋ミツバチは、野生種である日本ミツバチと違い人の手から離れると病気などで生きてゆけません。

日本蜂研究会

<http://jpbee.org/>

(特別区非営利活動団体/日本在来種みつばちの会会員)

Japanese Study Bee Group

(Non profit Organization/Member of a Japanese native species bee)

日本蜂研究会は、主に東京都内を拠点として日本ミツバチの保護、育成に関わる活動をしています。

日本ミツバチは、古来から本州以南に生息し、生態系では農作物、草花、樹木など植物の受粉に大きく関わる日本固有の無くてはならない益虫です。

古くは日本ミツバチのハチミツが生産されていました。しかし、西洋ミツバチの飛翔距離、集ミツ量に及ばないため国内養蜂の全てが西洋ミツバチに入れ替わってしまいました。現在では私たちが口にする蜂蜜はそのほとんどが中国からの輸入産品で、数少ない国内産ハチミツでもその99%が輸入された西洋ミツバチが集めたハチミツです。

西洋ミツバチは日本ミツバチと異なり、固有の伝染病に感染し、またミツバチの天敵である世界最大のスズメバチ、大スズメバチへの対抗力も持ち合わせておらず、日本国内では人の手を離れて生息できないのです。更に近年では、米国発の原因不明の大量失踪により主に果物の受粉において重大な農業問題に発展する状況です。

日本蜂研究会は、この日本固有種である日本ミツバチの保護育成、生態の研究を通し社会と自然環境の関係を探り、共存共栄できる自然環境づくりを模索しています。

日本蜂研究会の活動に賛同頂けましたらご寄付をよろしく願いいたします。

郵便振替口座 日本蜂研究会 00180-3-684783

個人で1万円以上の寄付をして頂きますと純国産ハチミツを送らせて頂きます。

日本蜂研究会 <http://jpbee.org/> 888@8.gasuki.net tel: 080-4153-9914